

紅蓮

「進撃の巨人」や「鬼滅の刃」があります。「進



I was born.
生まれるは
反動能
者自取

撃の巨人」の主題歌と言え「紅蓮の弓矢」、「鬼滅の刃」

は「紅蓮華」です。どちらも紅白で歌われています。今

回の仏教用語はこの「紅蓮」です。紅蓮を古代インド語

では「Padma」といい、深紅の蓮華という意味です。

そして、地獄の種類に鉢特摩地獄というのがありま

す。先ほどの「Padma」です。別名紅蓮地獄と言います。

私はここで、漢字のイメージだけで勘違いをしていまし

た。紅いから熱い苦しみを味わう地獄なんだろうと思

込んでいました。違いました。紅蓮地獄は、寒さの苦し

みを味わう八寒地獄の一つです。そこでは、紅蓮の華が

咲いたように、凍える寒さで身体の肉が咲けて血が流れ

るといふ苦しみを延々と味わい続けます。

この紅蓮地獄の中にも阿弥陀仏は飛び込んですくお

うとされます。節談説教では親子の情愛に譬える節があ

ります。



…八寒紅蓮の氷の中も、灼熱無間の焰の中
も、衆生一人、弥陀一人、実の子じやもの親じ
やもの…

こんなところに

仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。



べてのものが照らされています。
いかげでしょうか。正信偈の中から見つか
りましたか。群生はいかなる私も含まれていま

群生

日常の言葉と仏教の言葉
では読み方が違う漢字があ
ります。今回の「群生」がそ



うです。世間では「ぐんせい」と読みます。仏教では「ぐんじ

よう」と読みます。「ぐんせい」と読むと、群生地と言うよう

に主に植物が群れて広がっていることを指します。「ぐんじよ

う」と読むとすべての生き物を指します。すべての生き物とい

う事は、私も含まれるということです。ここが仏教を学ぶ上で

非常に大切なことです。この群生を浄土真宗でよく読む正信偈

の中から味わってみます。阿弥陀仏の慈悲を十二の光に譬えた

ところです。最後に「群生」と出てきます。

普放無量无边光 無碍无对光炎王 清浄歓喜智慧光

不断難思无称光 超日月光照塵刹 一切群生蒙光照

(阿弥陀仏の慈悲の光は、限りなく、境がなく、遮るものがな

く、ならばものがなく、光の王であり、清らかで、よろこびに

満ち、全てを見通し、絶え間なく、我々の考えや言葉ははるか

に及ばず、太陽や月をも超えた光で、すみずみまで照らし、す